

岐阜キリシタン小史(48)―岐阜を訪れたイエズス会宣教師⑧―

岐阜における信長とカブラル(『カブラル書簡』より)(4)

最後に、『カブラル書簡』に記された信長との謁見場面を改めて総括し、三名（カブラル、フロイス、ロレンソ了齋）が伝えたキリスト教の教えの要点を整理して締めくくりたい。

3.キリスト教教義についての問答

質素な衣装と来世観に関する説明(仏僧との対比)

この教えが伝えられたのは、信長がカブラル一行の質素な衣装（絹を着用していない貧しい身なり）に注目し、なぜそのような衣装を着ているのかを尋ねたことに端を発する。

ロレンソの説明の核心：ロレンソは、この衣装がイエズス会がインドで用いる装束であり、日本でもこれ以上の絹布を着用しないという会の決まりを伝えた。その上で、彼は、仏僧とキリスト教修道士の来世に対する考え方の違いを信長に説明した。キリスト教が現世の世俗的な富ではなく、来世の報いに焦点を当てているという価値観を伝えるものであった。

ロレンソ：「仏教の僧侶たちは、来世について知らず、天国の至福についても期待していないため、今生において良い扱いを受けることに執心しています。それゆえ、彼らは格別の方法で衣装をまとい、食するのです。しかしながら、我が会の修道士たちは、真実を知り、今生の後には地獄と天国があることを知っておりますので、後に天に召されんがため、慎ましくかつ貧しく生きるように努めております。」

信長の反応：信長は、「(イエズス会の)宗旨に即した方法で着想するのは、彼には大変良いことに思われる」と答えた。そして、ロレンソの説明には大変満足し、大いに拍手をした。「これらの者たちこそ、自分が探し求める明敏で正直な人々であり、日本の邪悪な僧侶たちとは異なることよ」と称賛し、同行の大身たちにもその言葉を伝えた。

食事に関する問答と肉食の教え

食事の準備が進む中で、信長は彼らの食習慣、特に肉食について関心を示した。

信長の質問と背景：まもなく信長はフロイスの元へ寄り、「パードレは肉を召し上がるか」と尋ねた（というも、日本で僧侶たちは米と野菜以外は食べないからです）。

カブラルの指示と説明の核心：この質問に対し、カブラルはフロイスに次のように答えるよう言った。

フロイス(カブラル)：「食べます。なぜなら我々は、それが禁じられている日以外は、肉であれ魚であれ、人々が我々に施すものを食べることを習慣としているからです。というも、善徳と聖性というのは、二つの事柄、すなわち真実かつ有益な[キリスト教の]教義と、教義を聖性に対して揺るぎ無い生活によってのみ成り立つものであり、肉や魚を食さないことによって成り立つものではないからです。これらの二つの事柄に関して、我々はデウスのお力添えによって、とりわけ秀でたものであるように努めております。」

信長の反応：信長はその答えを大変気に入った。彼は「これらの者たちこそ、自分が探し求める明敏で正直な人々であり、人々を惑わす偽善と嘘にまみれた日本の邪悪な僧侶たちとは異なることよ」と言いながら、大いに拍手をした。そして、我々とともに謁見に同席していた大身たちの方へ向き直り、「[パードレたちが]大いに誠実で正直であることが分かったゆえ、まことにこれらのパードたちと予の心は寸分の隙もなく一致している」と彼らに向かって言った。

説教の核心

食事の準備が進む中で、カブラルはロレンソに説教を行うよう命じた。

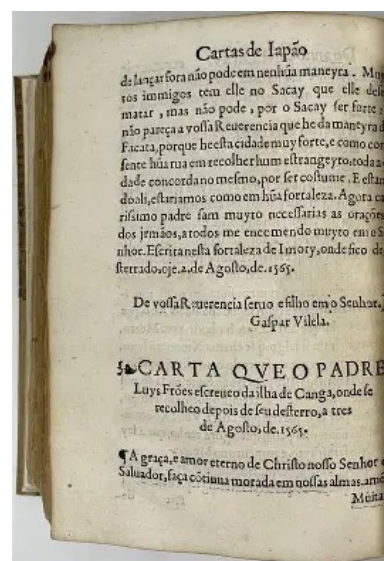
説教の核心と目的：カブラルは、「非常によい機会だと思いましたので」とし、イルマンのロレンソに、「創造主の唯一性についてと日本の宗教の欺瞞について」説教を行うよう命じた。

私はイルマンのロレンソに、創造主の唯一性についてと日本の宗教の欺瞞について説教を行うよう命じました。すなわち、信長はデウスについて知らず、それが当然のように考えているが、信長がその教えに対して好意的であるがゆえに、デウスが信長を加護し恵みを与えて正義をおこなわれるのは正当なことで、デウスのみが領国を与え、またそれを奪うことができるのである[王権神授説]等々ということです。ロレンソが説教している最中に信長は私の方へ向き直り、喜悦に満ちた顔で私に話しかけました。「パードレたちよ、なにゆえ僧侶たちがそなたらに害をなし、迫害するのか理由がお解かりか。なぜならそなたたちが真実を話し、それらの理によって彼らを当惑させるからである。なぜなら彼ら僧侶たちが欺瞞と呼ぶ「神も仏もない」ということは事実であり、彼らは世間を欺いているからである」。

信長の聴講姿勢と発言：信長は、この説教を1時間半ほど、非常に注意深く聴き続けた。説教の最中に、信長はカブラルの方へ向き直り、喜悦に満ちた顔で語りかけた。「パードレたちよ、なにゆえ僧侶たちがそなたらに害をなし、迫害するのか理由がお解かりか。なぜならそなたたちが真実を話し、それらの理によって彼らを当惑させるからである。なぜなら彼ら僧侶たちが欺瞞と呼ぶ、神も仏もないということは事実であり、彼らは世間を欺いているからである」。

周囲の反応：信長の家臣の主だった者たちは、パードレたち以外には何者もこれほど信長を魅了する者はいないであろうと言って、感嘆することしきりであった。

このカブラル書簡は、信長と宣教師の交流を直接記録した一次史料であり、岐阜城下の社会状況、信長の宗教観、布教戦略、民衆の反応を具体的に伝える点で極めて重要である。フロイス『日本史』と並び、戦国期日本における国際交流と宗教政策を理解する上で欠かせない史料であり、岐阜が天下布武の拠点であると同時に、キリスト教布教の舞台でもあったことを裏付けるものであった。✚



永禄年間イエズス会士
日本・東洋書簡集

=====

(参考①)イエズス会の職制と身分

イエズス会は、教皇への特別従順の誓願を持つ総長を頂点とする厳格な中央集権的組織である。会士の身分は、立てる誓願の種類によって厳密に分けられていた。

①統治機構(ガバナンス)

総長 (Superior Generalis)：イエズス会全体の最高責任者であり、終身制である。全世界の活動を統括する。

管区長 (Provincialis)：特定の国や地域(管区)を統括する責任者。日本の場合は「イエズス会日本管区」を統括した。

院長 (Rector) / 地区長 (Superior localis)：個々の修道院や教会の共同体(コレジオや家)の管理者。

②正会員の階級(身分)

正会員は、修練期間を経て、以下の四つの階級に位置づけられる。

完全な会士 (Professus Quattuor Votorum)：清貧、貞潔、従順に加え、教皇への特別従順の誓願(第四の誓願)を立てた司祭。イエズス会の中核を成し、指導層となる。

協働者司祭 (Sacerdos Coadiutor)：清貧、貞潔、従順の三誓願のみを立てた司祭。主に教育や司牧活動に従事する。

協働者修道士 (Coadiutor Temporalis)：三誓願を立てた修道士(ブラザー)で、司祭職には就かない。共同体内の俗務、管理、技術的業務を担う。

形成中の会士 (Scholasticus)：司祭叙階を目指して神学や哲学を学ぶ学生。有期(一時的)の誓願を立てる。

③日本における布教活動身分

以下の身分は、特に日本の宣教史において重要であり、職制上の階級に対応しつつ、現場の役割を表す呼称として使われた。

パードレ (Padre)：ポルトガル語で「父」を意味し、司祭の敬称。主に上記の完全な会士や協働者司祭といったヨーロッパ人司祭を指す。教義の教授、秘跡の執行など、聖職者としての中心的な役割を担った。

イルマン (Irmão)：ポルトガル語で「兄弟 (ブラザー)」を意味する呼称。主に協働者修道士や形成中の会士といった身分の日本人会士を指す歴史的な呼称として定着した。宣教師の通訳、教理の教授、教会の管理など、布教活動の実務を担う重要な存在であった (例：ロレンソ了斎)。

同宿 (どうしゆく、Donado)：正式な誓願を立てていないが、イエズス会の共同体に住み込み、無給で奉仕した日本人信徒。雑務や連絡係など、修道会生活を支援した。献身的な生活を経て、後にイルマンへの昇格を目指すことも可能であった。

召使い (Criado) / 奴隷 (Escravo)：同宿とは異なり、教会や修道院で労働力として働いていた人々。召使いは賃金を得る雇用人、奴隷は所有物として扱われ、イエズス会の職制上の身分や修道士としての資格はなかった。

(参考②)16 世紀のイエズス会の管区・準管区一覧

1. ヨーロッパの主要管区

地域	名称 (日本語)	名称 (ラテン語/英語)	設立時期 (目安)	備考
ポルトガル	ポルトガル管区	Provincia Lusitana	1546年10月	イエズス会最初の管区。アジア・ブラジル方面の宣教を主導。
スペイン	カスティリャ管区	Provincia Castellae	1544-1550年代	スペイン本土は、主に以下の3管区に分割された。
スペイン	アラゴン管区	Provincia Aragoniae	1544-1550年代	
スペイン	ベティカ管区	Provincia Baeticae	1544-1550年代	(現在のアンダルシア地方など)
イタリア	ローマ管区	Provincia Romana	1550年代	総長館があるローマを含む。後にシチリア、ナポリ等に細分化。
イタリア	シチリア管区	Provincia Siciliae	1550年代	
イタリア	ナポリ管区	Provincia Neapolitana	1550年代	
フランス	フランス管区	Provincia Franciae	1550年代	
神聖ローマ帝国	ゲルマニア管区	Provincia Germaniae	1550年代	ドイツ語圏 (ドイツ、オーストリア、ボヘミアなど) を管轄。対抗宗教改革の最前線。
神聖ローマ帝国	ネーデルラント管区	Provincia Belgica	1564年	(フランドル/低地諸国)
ポーランド	ポーランド管区	Provincia Poloniae	1564年	

2. 海外の主要な管区・準管区

地域	名称 (日本語)	名称 (ラテン語/英語)	設立時期 (目安)	備考
インド	インド管区 (ゴア)	Provincia Indiae (Goa)	1570年代初期	東方における最初の管区。ポルトガルに属し、東アジアの拠点となった。
日本	日本準管区	Regio Japonica	1579年	ヴァリニャーノ巡察師によりゴア管区から独立した準管区として設立。
ブラジル	ブラジル管区	Provincia Brasiliae	1553年	ポルトガルに属し、新大陸における初の独立管区の一つ。
メキシコ	メキシコ準管区	Regio Mexicana	1570年代	スペインに従属。後のメキシコ管区の基盤。
ペルー	ペルー準管区	Regio Peruviana	1570年代	スペインに従属。
フィリピン	フィリピン・ミッシェン	Missio Insularum Philippinarum	1581年	スペイン管区に従属するミッシェンとして開始。

(以上)